

# 憩いの庭

北新潟キリスト教会新聞 No. 21  
2020年11月29日(日)発行 (季刊)

「主は私の羊飼い。  
主は私を緑の牧場に伏させ、  
いこいのみぎわに伴われます。」  
(旧約聖書・詩篇23篇1～2節)

「コロナ禍にあって」 牧師 原山康伸

## <教会の秋>

一段と寒さが増し加わり、教会の庭にはセンリョウがことのほか多くの赤い実を結ばせています。その側には純白の山茶花の花が咲き始めました。間もなく落葉の時を迎えるのでしょうか、紅葉がひとときわ紅く染まってきました。その枝に鶯の幼鳥が飛来し、しばしこちらの目をくぎ付けにします。例年ですと、チャペルコンサートの時期ですが、今年はコロナ禍でコンサートを行いません。

## <秋の文化展覧会・バザー>

そのような中で、去る11月1日(日)～8日(日)まで、秋の文化展覧会・バザーを祝福のうちに行いました(大人154人来場)。若き日に精魂込めて制作した絵画や刺繍の「最後の晩餐」は、見ごたえのある力作でした。聖書のみことばを墨書きした聖句書道も、創意工夫の見られる秀作揃いでした。バザーでは手作りの小物やパッチワーク、たくさんの陶器や食器類も販売されました。家庭菜園をしている方々が持ち寄ってくださる新鮮な野菜は、一番人気がありすぐに完売されました。

## <子ども祝福式>

11月14日(土)と21日(土)には、教会学校の子どもたちと「ひかりキッズ」の園児との合同で、子ども祝福式を行いました(子ども32人、大人28人参加)。子どもたちはそれぞれの家族の一員というだけではなく、私たちの社会の大切な一人ひとりです。現代の社会が抱えるたくさんの問題や危機的な状況乗り越えていくためには、大人だけの力では不十分です。子どもたちにも、新しい一員として登場してもらわなければなりません。主イエスさまは、無力で力の弱いと思われる子ど



もたちの存在を大変尊ばれました。その様子が、次のように聖書に記されています。「さて、イエスに触れていただこうと、人々が子どもたちを連れて来た。ところが弟子たちは彼らを叱った。イエスはそれを見て、憤って弟子たちに言われた。『子どもたちを、わたしのところに来させなさい。邪魔してはいけません。神の国はこのような者たちのものなのです。まことに、あなた方に言います。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできません。』そしてイエスは子どもたちを抱き、彼らの上に手を置いて祝福された」(マルコの福音書10章13～16節)。

## <子どもを招くイエスさま>

イエスさまは、「子どもたちを、わたしのところに来させなさい」と、今も招いておられます。主なる神イエスさまは、それぞれのご家庭に神の代理人としての両親のもと、子どもたちをゆだね託しておられます。ですから私たちは日々子どもたちと向き合いながら、やがて子どもたちが成長し、自立した人生を歩んでいくために大切な愛の土台作りを手間暇かけて行っていきたいものです。命の源であられるイエスさまのもとに、子どもたち一人ひとりを連れていくことこそ、私たち大人の責任ではないでしょうか。現代は様々な家族の姿があり、傷みを受けやすい子どもたちが多いからこそ、聖書の原点に学んでいきたいものです。

コロナ禍にひるむな園児天高し

★クリスマス礼拝にお出かけ下さい。

12月20日(日)午前10:30～11:45

共にクリスマスキャロルを歌いましょう!

\*\*\*\*\* 🕯️ \*\*\*\*\*



「コロナ禍での孫との体験」 教会員 藤島一子

＜コロナ禍に＞

今年2020年も残すところわずかとなりました。振り返ってみれば今年はコロナ禍で始まり、現在も終焉を見ていません。欧米では冬の到来を機に感染者が増大しており、日本も他人事ではありません。コロナに怯え、ウイズコロナとして闘っていかねばならないのが現状です。

＜4歳児のコロナ疎開＞

我が家は現在夫と二人暮らしですが、今年にはコロナ関連で大きな出来事がありました。それは3月のことでした。東京在住の4歳の男子の孫が新潟の私たち祖父母のもとに一人でやって来たのです。

春嵐疎開のリュックにおもちゃ詰め

新潟は春嵐が吹き荒れていた日でした。彼は4歳児なりに並々ならぬ決意を持って両親と離れて来たに違いありません。

彼は結局、3月末から10月初めまでの半年間、一回も東京には帰ることができませんでしたが、泣き言一つ言わずにむしろ私たちに幼子の明るさと喜びをもたらしてくれました。

3月に入った東京はコロナ感染者が増えつつあり、孫が通う保育園もいつ休園になるのかと案じられるようになりました。私たち夫婦は次女夫婦と何回も話し合い、新潟への疎開を決めました。孫も了解しました。

そしてこの貴重な時を、新潟でしかできない自然体験をさせたり、お手伝いをさせたり、思い切り一緒に遊ぶことを大切にしようと決めました。特に昆虫の好きな孫は毎日蝶やバッタ、トンボ、蜘蛛、蟻、カマキリ、ダンゴムシに夢中になり、じゅんさい池や我が家の庭で歓声をあげていましたし、菜園の野菜を収穫したり、ござれや橋から見る阿賀野川や日本海の広がりにも感動していました。

また、エプロンとマイ包丁を用意し、二人でいろんなものを作りました。サラダやカレーやホットケーキや夏野菜の炒め物などなど。

＜ひかりキッズに＞

それからもう一つ大きな感謝がありました。それはキリスト教系の保育園に入れていただいたことです。ひかりキッズの保育園に6ヶ月間お世話になりました。幼子のエネルギーを私たち夫婦だけでは到底担いきれませんが、保育園で預かっていただくことにより、孫もお友達と遊んだり、集団生活を東京と同様、いやそれ以上に丁寧に愛いっばいに育てていただきました。賛美歌も覚え、英語にも親しむことができました。この間、1日も欠かさずに彼の両親から手紙が届いていましたし、毎日ライン電話を交わしていました。

現在は東京に戻っていますが、新潟での疎開生活は私たちにとっても孫にとっても、有意義かつ貴重な時間であったと思っています。

《北新潟キリスト教会の集会案内》

- 主日礼拝(日曜日)午前10:30～12:00
- 教会学校(日曜日)午前 9:30～10:00
- 聖書の学びと祈り会(水曜日)午後7:30～9:00
- 聖書を読む会(木曜日)午前10:00～11:30
- ほっと会(第2火曜日)午前 9:30～11:30
- 俳句同好会(第3水曜日)午前10:00～11:30
- 聖句書道同好会(第4火曜日)午前10:00～12:00



〒950-3112 新潟市北区大夫浜 2040-1

日本同盟基督教団 北新潟キリスト教会

牧師・原山康伸

☎025(259)4491 (旧松浜教会、附属さんび園同窓会事務所)

<ホームページ><http://www.kitaniigata-church.com>

\*\*\*\*\*  
当教会は、聖書を大切にするプロテスタント教会であり、エホバの証人(ものみの塔)や統一教会、モルモン教などとは関係がありません。安心してお出かけください。